

【中学生の部】奨励賞

『人を動かす』(D・カーネギー／著 山口 博／訳)

八戸市立江陽中学校 3年 三村 佳漣

大人になっていくにつれて人間関係は難しくなっていく。中学生の今も友達関係がうまくいかない人をたくさん見かける。私もその一人だ。私は吹奏楽部の部長だ。楽しいこともたくさんあったが、悩んでいる時間の方が多かった。部活動に真剣に向き合ってくれない子もいて、部長としてどう接すればよいのかわからなかった。どんな言葉を掛ければよいのか迷った。そんなときにこの本に出会った。人間関係を築く上で基本的なことがある。その基本的なことができていなかったことに気付かされた。相手にもその人なりの言い分があって、それを受け入れることが大切。社会に出てから、より複雑になる人間関係を円滑にするコツを教えてくれる心強い一冊だ。

『君の心を読ませて』(浜口 倫太郎／著)

八戸市立鮫中学校 2年 神山 桃香

この本に出てくるのは、頭が良すぎて親にも同じクラスの人にもなじめず人からの愛が分からない主人公。そんな主人公がAIの妹と5人の人達と共に変わっていく物語です。私も、人間関係が難しいと思ったことが何度もあります。人にあまり言い返せない性格で嫌がらせを受けることも多く、何度も学校に行きたくないと考えていました。が、素をさらけ出せる親友と、絵が上手い友達がいることを楽しみに学校に行けるようになりました。自分のことを理解してくれる人がいることが大切で、その分自分もその人のことを大切にしなければいけないことがわかりました。人の繊細さや友達の大切さを感じたい人におすすめの本です。

『よるのばけもの』(住野 よる／著)

県立三本木高等学校附属中学校 3年 櫻田 陽奈

私が、友だちにおすすめしたい本は、「よるのばけもの」だ。この話のテーマは「いじめを止める本当の勇気」だ。この大切さ、難しさを友達だけでなく全国の学生にしてほしいと思った。

私は、一度だけいじめをしているのを見かけたことがある。この本の主人公のように、自分はいじめていないが、いじめをとめることもできない人となっていた。私は、逃げた。しかし、この本の主人公は、小さな勇気を持ち続け行動にうつしていた。そんな人になりたいと思った。

私の学校は平和だが、実際に今でも全国ではいじめが起こっている。温かい世界を作るためにも、友達に読んでほしい。

『海を見た日』(M・G・ヘネシー／著 杉田七重／訳)

十和田市立三本木中学校 2年 古里 浩志

里親制度で出会った子供達が養母の元で幾多の困難を乗り越えることにより絆を深め、本物の家族に成長していく物語。僕は、優しい父母の元に生まれ、何不自由なく育った。あたたかい家族の形が日常にあった。しかし、この本に出会い、家族とは、決して血のつながりだけではないことを悟る。長い時間、支え合いながら生きる中で、共に笑うこと、共に泣くこと、その一つ一つが真の家族を築き上げていくのだ。僕が一番衝撃を受けたのは子供達の心の強さだ。どんなにつらいことがあっても前だけを見て突き進んでいく。今の僕は苦手なことがあるとすぐに諦めてしまう。弱い心に負けてしまいそうな時、「頑張れ。」と勇気を与えてくれる、そんな一冊だ。

『13歳のキミへ 中学生生活に自信がつくヒント35』(高濱 正伸／著)

県立三本木高等学校附属中学校 1年 高田 凰晟

この本を読んで、「カッコつけない、自分に正直になれ」という一文が心に残った。私は、テストや陸上の大会で自分の思い通りの結果が出せなかった時に、自分の勉強不足や練習不足、努力不足が原因と気付いていた。しから、それ以外のことが原因だと考えることで、自分の弱さから逃げていた。

そんな時にこの本に出会った。この本からは、これからも思い通りにいかないことがある。そんな時には、自分と向き合わなきゃいけないということを学んだ。自分について考え直すきっかけとなった1冊だ。

この本には大人になってからも必要になってくる、生きるためのヒントが書いてある。この本をぜひ、周りの13歳にも読んでほしい。

『よるのばけもの』(住野 よる／著)

青森市立筒井中学校 1年 奥本 知歩

この本は、みんなから嫌われたくない昼の主人公と、黒い化け物の姿になった「僕」の物語です。主人公はみんなからずれたくないため、本当の自分の考えを隠して過ごしています。私にも少し似ているところがありました。友達と話すときや、クラスで多数決を行うとき、私はいつも多数派についていきがちです。そんなとき、勇気を出して自分が正しいと思う行動をする主人公に勇気をもらいました。そして、私もきちんと自分の意見を出して行動しようと思いました。私以外にも、この主人公のように自分の考えを隠している人がいると思います。そんな人は、ぜひこの本を読んでみてください。きっと優しく背中を押してくれます。

『おまじない』(西 加奈子／著)

県立三本木高等学校附属中学校 3年 佐々木 凛

私は昔から、話し合いや授業でよく発表するタイプであった。そしてそんな自分が好きだったし、自信をもっていた。だがそれは中学に入り変わってしまった。ある日、発表することを「でしゃばり」と1人の友達にバカにされたのだ。笑いが起こった。それからずっとはずかしいような、悔しいようなよく分からない気持ちでいっぱいだった。

そんな時に出会ったこの本は、私にたくさんの言葉を与えてくれた。結局、私を笑うことで否定したのは全員他人だった。最初から私は自分が好きだし、ダメだなんて本当は微塵も思っていなかった。「私は悪くない」この言葉は、そんな私に何度も寄り添い、私を強くしてくれた「おまじない」である。

『明るい夜に出かけて』(佐藤 多佳子／著)

八戸市立湊中学校 3年 志民 ひより

主人公は、深夜ラジオを愛する男子大学生。バイト先のコンビニに現れた女子高校生の佐古田との出会いを通し、自分の過去や体質と向き合っていくお話です。高校時代からの親友、永川や、バイトリーダーの鹿沢とも交流を深めていく中で、主人公がだんだんと変わっていく様子は読んでいてとても面白いものでした。私も深夜ラジオに興味を持ち、今でもたまに聴いていますが、この瞬間にどこかで話しているパーソナリティがいて、私と同じようにこれを聴いている人がいるんだなど初めて聴いたときに不思議な気持ちになったことを覚えています。主人公や周りの登場人物たちの変化を楽しむとともに、深夜ラジオの魅力にも触れられる作品です。

『10代のための疲れた心がラクになる本

「敏感すぎる」「傷つきやすい」自分を好きになる方法』(長沼 睦雄／著)

八戸市立鮫中学校 2年 梅村 心陽

この本は思春期真っ盛りの10代の悩みを抱えている人に特に読んでもらいたいです。大人になる準備段階でいろいろな壁にぶつかる人が多いと思います。私も周りの視線に敏感になったり、朝起きるとまた1日が始まってしまうとどんよりした気分になったり悩まされてきました。「知ることが理解を深め、理解が心を救う」という言葉がありました。自分の気持ちを伝えられなくてむしゃくしゃして落ち込むのは言葉を知らないからなんだなと思いました。私は同じ悩みをもっている人がいるんだと安心しました。今辛い思いをして悩んでいる人がいるならこの本を読んで少しでも心の荷物が軽くなるといいなと思います。